

エチオピアで世界一の物づくり

中小企業だからこそできる、一人一人に寄り添った人材育成



2019年 7月31日



株式会社 **ヒロキ**

代表取締役 権田浩幸

1. (株)ヒロキの紹介



会社概要

- 創 業：1952年5月
- 所 在 地：本 社：〒231-0861横浜市中区元町2-89
045-681-1335 <http://www.hiroki-co.jp>
- 直 営 店：横浜元町本店 / ポルタ店
- 事 業 内 容：革・毛皮製品(革衣料・バッグ・革小物)の製造・販売及び同商品の輸入・販売

海外拠点

- 中国 北京市：2005年8月設立 北京福創服飾有限公司（独資）
- エチオピア オロミア州：2014年7月 Hiroki Addis Manufacturing S.C



■要人来社



2013年6月ハイレマリム デッサレン首相(当時)
他、各省の大臣がヒロキ本社に来社

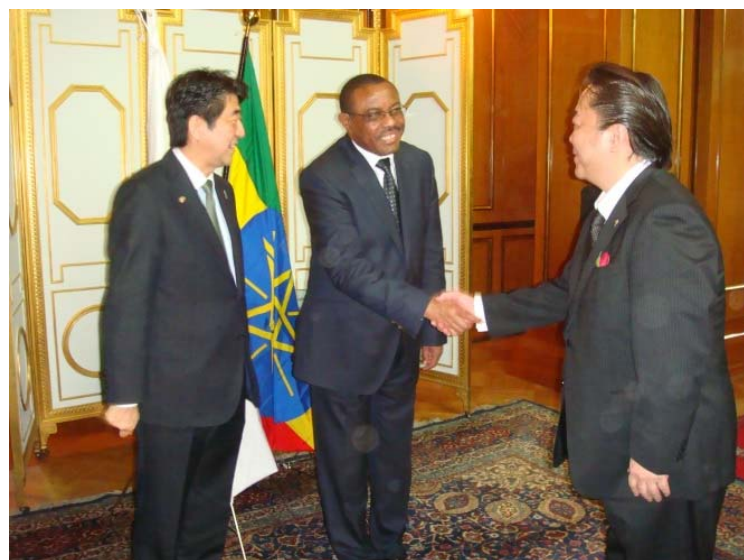


2009年3月
タデッセ・ハイレ貿易産業国務大臣(当時) 来社



2014年8月 ムクタール・ケドウル
オロミア州大統領来社

■首脳会談



2014年1月 安部首相のエチオピア訪問に随行
エチオピア大統領宮殿にて

■国連会議



2014年11月 国連UNIDO主催 ISID
フォーラムに参加 ウィーンにて

■TICAD VI



2016年8月 TICAD VI (ケニア)
本会議場にて安倍首相と

2. エチオピアに進出した経緯



- 当時、材料の展示会で見たエチオピアシープに惚れ込み、「この素材で衣料を作ろう」と決意。

※エチオピアシープは、ゴルフグローブをはじめとする手袋用の革で、柔らかく、しなやかで、とても丈夫な世界一と評される羊革。

- この究極の革材料を求めてエチオピアのタンナリーを訪ね、2007年より現地のなめし工場と直接取引を開始する。
- エチオピアシープは手袋用という常識の壁を越え、衣料用として0.45mm厚みのリバーシブル用の素材を現地のなめし工場と開発し成功した。
- 当時は、鞣し上がった革を中国の自社工場に送り、裁断・縫製していた。



『エチオピアの革材料を用いて、世界に誇る日本品質による革製品をエチオピア人自身で創りあげ、世界のマーケットに送り出す』

という理念のもと、日系企業初のエチオピア現地法人を設立。現地の素材を現地で付加価値をのせて輸出することができたら、エチオピアにとっても、弊社にとっても有意義である。また、取引先と常に近くにいることは、共同での材料開発も円滑になる。

パイオニアとしてのミッションは2つ

- ・ エチオピアへの技術移転による産業発展
- ・ 日系企業の投資促進



3. ヒロキ アデイス マニュファクチャリング S.C 設立



Hiroki Addis Manufacturing S.C



工場外観



工場内観

会社概要

資本金 53万USD

稼働 2014年8月

スタッフ数 22名

主要株主 ヒロキグループ
豊田通商CSVアフリカ



窓からの風景



ミーティング風景

4. エチオピア工場の課題



■人材育成に多くの時間と費用がかかる

【少人数のスタッフに対し、3人の日本人技術者が指導】

なぜなら

○エチオピアシープレザーと他の革との違いは、吸い付くような手触りと柔らかさ。

弊社はこの特徴を最大限に生かすために、表面に顔料を塗布せず、

水染め素あげにこだわっている。そのため裁断・縫製は高度な技術を要する。

○スタッフたちは、気配りの行き届いた日本の製品に触れる機会が少ない。

○ある程度一人で作業するまでに、1～3年のトレーニング期間を要する。

○トレーニングが修了すると、他社に転職するスタッフも多い。

○エチオピアへ長期に渡り滞在する指導者の確保が困難。



5. 課題解決のための人材教育



■一人一人に寄り添った人材育成

技術を教えるとともに、大切なのは日本のファンになってもらうこと

○日本人技術者は、まず「日本のものづくり精神」から指導。

細部（見えないところ）にも気を遣う「日本のものづくり精神」を教え、それに共感を得ることから始める。

○弊社の扱う素材は、天然無垢革であり、企画の統一された工業製品ではなく人の手から生まれる工芸品である。そのため、一人が一着、最初から最後まで作ることができるよう指導。

効率よりも、時間と愛情を込めて丁寧に製造することを重視している。

○一般のアパレル工場では、流れ作業のため何年働いても、一人で服を完成させることはできない。

弊社は、流れ作業ではないため、技術を習得すれば服づくりのすべてを理解させる指導を実施

他の工場で工場長になれるほどの実力が身につき、独立もできる。

○AOTSの受け入れ研修に参加させ、ものづくりの基本姿勢を学び、エチオピアの工場で実践する。

また、来日し日本の社会や人々と接し、そして自分たちが作った商品を販売している店舗を見学することでお互いを知り、日本を好きになってもらう。

○AOTSの専門家派遣制度を利用して、日本の技術者の高い技術とこだわりを常に触れさせ、世界のどこにでも通用する商品を作り上げる。

6. 最後に



■ 「量より質」を求められる時代が必ず来る。

エチオピアは、今急速に発展をしています。

現在は、「量産型製造業」が主流ですが、それが成熟した後は「製品の質」が求められる時代が必ず来るはずです。

その時までには、いかに多くの「良品づくりのマインド」を持った若者を育てられるか。

微力ながら、私たちの活動がその一助となるべく努力をしていく所存であり、成し遂げられたらこの上ない幸せです。

近い将来、MADE IN ETHIOPIA が「世界の良品」の代名詞になることを心から願っています。

HIROKI ORIGINAL LEATHER CLOTHES COLLECTION



HIROKI ORIGINAL LEATHER BAG COLLECTION

